

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
2022. 8. 25
No.15 文責 荒木秀

第3回研究全体会を終えて①

月曜日は、研究全体会お疲れさまでした。小林先生をお招きしての研修会いかがだったでしょうか？先生方のリフレクションを通して、今回の研修会をふり返ってみようと思います。なお紙幅の関係で、一部抜粋となることをご了承ください。

Q1 今日の一番の学びは何ですか？

- ・教室での話し方が子供たちも私もちがちに固まっていた気がするので、**こういう風に発表しなければいけないという気持ちが強くて、委縮させてしまっていた**のではないかと反省するきっかけとなりました。
- ・私自身も、常々「教師・教員」という名でありながら、教えることが仕事ではなく、**サポーター的役割が求められている**のだと思って仕事をしているので、間違っていたと思えた。
- ・教師と子ども、子ども同士の間で**他社理解や相互理解**をすることが、対話と深い学びにつながるということが一番の学びです。これまで自分が大切だと思っていたことだったので、それが子どもたちの学びにつながるということが分かり、改めて大切にしていこうと感じました。
- ・**子どもが解決したい、やってみたいと思う課題、子ども自身が作り出す課題に寄り添うこと**、子どもたちの主体的な学びによって指導計画を変更しながら単元を創っていくことを学びました。
- ・子どもの自主性・主体性について、なんとなくイメージして使っていたことに気づき、改めて**言葉を突き詰めることの大切さ**を感じた。
- ・主体的＝自分事、対話的＝自分の言いたいことを言っているか、聞いているか、深い学び＝自分ももっとどうなっていきたいか、みんなでどうしていききたいか、**知識だけでなく、人間的な深まり**ということを学びました。これまで、自分が思ってきた以上に、主体的・対話的・深い学びがそれぞれ、奥深いことがわかったからです。

「ねばならぬ」を見直したり、教育用語の意味を考えたりと、小林先生の実践を基にしたお話を聞いて、先生方、自分自身の指導をふり返ってくださったようです。自分の教育観に自信を持ってくださった先生もいらっしゃいました。流行に流されず、信念をもって子ども達に接することを教えていただきましたね。